

自己評価報告書(最終報告)

報告者

幼年発達支援コース
／田村 隆宏

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

教育・保育実践の前提となる子どもの発達理解、保育内容に関する基礎的な知識の習得と、それに基づいた具体的な実践を明確にイメージできることを目指した内容、及び講義・演習のあり方を模索する。具体的な授業実践のあり方としては、受講生に常に実践的な視点をもって研究成果を捉えるという態度を育むために、講義の中で話す内容も常に教育・保育実践と対応する観点を持つものにし、さらに実践的な視点からの討論活動を講義・演習の中で積極的に取り入れる。成績評価も単なる知識の獲得を問題にするだけでなく、討論活動の様子や受講生自らの評価を加味する。

2. 点検・評価

教育・保育実践の前提となる子どもの発達理解、保育内容に関する基礎的な知識の習得と、それに基づいた具体的な実践を明確にイメージできることを目指した講義・演習を実施した。具体的には、受講生に常に実践的な視点をもって研究成果を捉えるという態度を育むために、講義の中で話す内容も常に教育・保育実践と対応する観点を持つものにし、さらに実践的な視点からの討論活動を講義・演習の中で積極的に取り入れた。その結果、授業評価の自由記述欄等で、授業の内容を実践的観点から考えることができたとの意見が多数寄せられた。また、学生のグループ発表を受講生が自ら実践的な観点で評価させたことにより、より実践的な目が養われたことも、授業評価のコメントから示唆された。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

学部生、大学院生の就職活動については、コースが収集している採用試験に関する情報、及び過去の修了生、卒業生からの採用試験に関わる情報を学生に積極的に提供し、就職に対する意識や意欲を高める。また各地から送られてくる教員や保育士の募集情報を学生に積極的に提供し、学生の就職活動をサポートする。

2. 点検・評価

学部生、大学院生の就職活動については、コースが収集している採用試験に関する情報、及び過去の修了生、卒業生からの採用試験に関わる情報を学生に積極的に提供し、就職に対する意識や意欲を高めた。また各地から送られてくる教員や保育士の募集情報を学生に積極的に提供し、学生の就職活動を積極的にサポートした。最終的な就職状況は、大学院生では修了生2名のうち、1名が私立幼稚園に正式採用された。さらにもう一名は来年度採用に向けて準備中である。学部生は卒業生2名とも、それぞれ国立、公立の幼稚園に常勤職員として採用された。この就職状況も、この取り組みの効果の一端であると考えられる。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

現在、編集執筆者として関わっていて既に校正段階にある教育心理学に関わる著書の公刊を実現するとともに、大学生を対象としたアルバイト活動の教育的意義を検証するデータを関連学会で発表する。また、幼児の語彙獲得に関わる研究成果を欧文雑誌に投稿する。さらに、平成21年度に採択され、最終年度に入る科学研究「幼稚園における教育実習生・新任教員の力量形成のための保育データベース開発研究」では研究代表者として調査研究をまとめる。

2. 点検・評価

編集執筆者として関わった教育心理学に関わる著書「学校で役立つ教育心理学」が9月30日付けで八千代出版から公刊された。さらに大学生を対象としたアルバイト活動の教育的意義を検証するデータを日本教育心理学会総会(7月24日、北翔大学)、日本心理学会大会(9月17日、日本大学)で発表した。また、幼児の語彙獲得に関わる研究成果を欧文雑誌に現在投稿中で審査過程にある。さらに、平成21年度に採択され、最終年度に入る科学研究「幼稚園における教育実習生・新任教員の力量形成のための保育データベース開発研究」では研究代表者として研究成果をまとめている段階にある。さらに今年度は、日本教育心理学会では機関誌の編集委員を務め、日本応用教育心理学会では理事兼編集主任も務めるなど、関連学会への貢献も積極的に果たした。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

大学運営については、昨年度から在任中である学部入試委員会委員として学部入学試験の業務に直接的に関わる。また東京学芸大学を主幹とした6大学連携人材GPIに関わる社団法人の運営委員として特にカリキュラム検討を担当し、教育支援人材育成事業に積極的に携わる。

2. 点検・評価

大学運営については学部入試委員会副委員長として学部入学試験の業務に直接的に関わった。年間を通して実施された学部入試、大学入試センター試験ではミスなく無事に実施できた。特に他大学で大きなミスが目立ったセンター入試では本学では2日間とも全くのミスなく実施できたことは、本学の実施体制の秀逸さを示していると考えられる。

また東京学芸大学を主幹とした6大学連携人材GPIに関わる社団法人の運営委員として特にカリキュラム検討を担当し、教育支援人材育成事業に積極的に携わった。

さらに、連合大学院の先端教育課題実践コースの本学の代議委員として運営、入試業務にも積極的に関わった。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

附属幼稚園との連携については、月に3~4回開催される合同研究会に参加し、保育実践に関わる共同研究に加わり、その成果を附属幼稚園研究紀要にまとめる。また研究代表者として関わっている科学研究「幼稚園における教育実習生・新任教員の力量形成のための保育データベース開発研究」では、特に附属幼稚園の保育実践場面を研究対象としていることから、さらに連携を密にしながら研究を進める。社会との連携については、教育支援アドバイザーとして複数のテーマを掲げ、講演等の依頼に対して積極的に赴くことに加え、徳島市教育委員会・社会教育委員として積極的に地域貢献をする。

2. 点検・評価

附属幼稚園との連携については、月に3~4回開催される合同研究会に参加し、保育実践に関わる共同研究に加わり、その成果を附属幼稚園研究紀要にまとめた。また研究代表者として関わっている科学研究「幼稚園における教育実習生・新任教員の力量形成のための保育データベース開発研究」では、特に附属幼稚園の保育実践場面を研究対象としていることから、さらに連携を密にしながら研究を進めた。この研究成果については現在報告書をまとめている段階にある。社会との連携については、教育支援アドバイザーとして鳴門市保育所環境部会と上板町教育保育研究部会からの依頼で「保育の資質向上を目指して、保育環境を捉え直す」とのテーマで講演を行った。さらに、徳島県学校心理士会から依頼された「9、10歳の壁について」との講演も行った。

加えて、徳島市教育委員会・社会教育委員として生涯学習にかかわる事業の運営に学識経験者として積極的に関わった。また鳴門市教育委員会の子育て支援事業において保育カウンセラーとして年間6人の保護者の相談にも応じた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)